

地 域 再 生 計 画
(地方創生道整備推進交付金)

～地域の共助と安心安全で活力あるまちづくり計画～

事 後 評 価

令和2年3月

宇 和 島 市

1. 地域再生計画の概要

計画名称	宇和島市「地域の共助と安心安全で活力あるまちづくり」計画
作成主体	愛媛県、宇和島市
計画区域	宇和島市の全域
支援措置	地方創生道整備推進交付金
認定日	平成 24 年 3 月 29 日（第 21 回認定）
変更日	平成 28 年 3 月 15 日（第 36 回認定）
計画主旨 (目標)	<p>豊かな自然の保全や森林の適正な管理を継続していくためには、山間部や沿岸部に点在している集落の存続が不可欠であるため、生活環境を改善して定住化を促進する必要がある。山間部や沿岸部の集落の地域コミュニティを維持することは、災害発生時の共助という観点からも重要な課題である。車以外に交通手段のない周辺地域において、安心安全を確保するため、狭隘幅員の解消や視距改良を行い、緊急車両の円滑な通行を確保するとともに、災害時の円滑な避難や孤立を防ぐために改良が必要な市道を整備する。</p> <p>また、豊かな山や海を守るための森林の公益機能を保全するとともに、災害に強い山林を維持するためには、間伐等による森林機能回復や適正な管理が求められる。これらのことから、林業機械の導入により、間伐等の森林整備の加速化、労力の軽減、木材生産の向上を図るために、必要な林道を整備する。</p>

2. 地域再生計画に記載した目標の達成状況

目標と内容		従前値	目標値	実績値	達成度
目標 1	<p>●災害時孤立集落の解消</p> <p>災害時に孤立するおそれがある集落のうち、アクセス道路を改良することにより「3集落（成川集落・尾崎集落・平駄馬集落）」を解消する。</p>	3 集落	3 集落	3 集落	100%
目標 2	<p>●大型消防車の到達不能集落の解消</p> <p>市道全線に対する大型車の通行可能区間の向上</p>	35.1%	36.1%	35.8%	99%
目標 3	<p>●災害に強い森林の造成</p> <p>宇和島市森林整備計画（H24～H28）における間伐面積</p>	13.4ha	33.4ha	33.4ha	100%

3. 目標を達成するために行った事業

(地域再生法第5章の特別の措置を適用して行った事業：地方創生道整備推進交付金)

路線名 (箇所名)	路線の特徴・抱えていた問題	主な整備の目的
市道黒井地本線 (三間町戸雁地区)	戸雁集落・黒井地集落から県道 広見吉田線へ接続する幹線路線 である。	歩行者等の安全確保を目的と した歩道の設置
市道成川線 (祝森地区)	成川集落と国道56号を結ぶ路 線であり、かろうじて乗用車が 通行できる程度の未改良区間が 残されている。	狭隘幅員の解消、視距確保、緊 急車両の円滑な通行確保、災害 防除を目的とした1車線整備 ならびにアクセス改善
市道三浦西16号線 (三浦地区)	尾崎集落と県道宇和島下波津島 線を結ぶ路線であり、かろうじ て乗用車が通行できる程度の未 改良区間が残されている。	同上
市道上光満平駄馬線 (光満地区)	上光満集落・平駄馬集落と県道 広見三間宇和島線を結ぶ路線で あり、かろうじて乗用車が通行 できる程度の未改良区間が残さ れている。	同上
市道泉町高串線 (高串地区)	下高串集落の県道広見三間宇和 島線との交差点において、隅切 りがないため見通しが悪く、か ろうじて乗用車が通行できる程 度の状況。	視距確保と緊急車両の円滑な 通行確保を目的とした交差点 部の改良
林道黒井地支線 (三間町黒井地地区)	林道整備が遅れ森林管理が困難 な状況となっている。	林業の合理化と森林の適正な 管理の推進を図ることを目的 とした本林道の整備促進(延 伸)

路線毎の事業量及び事業費

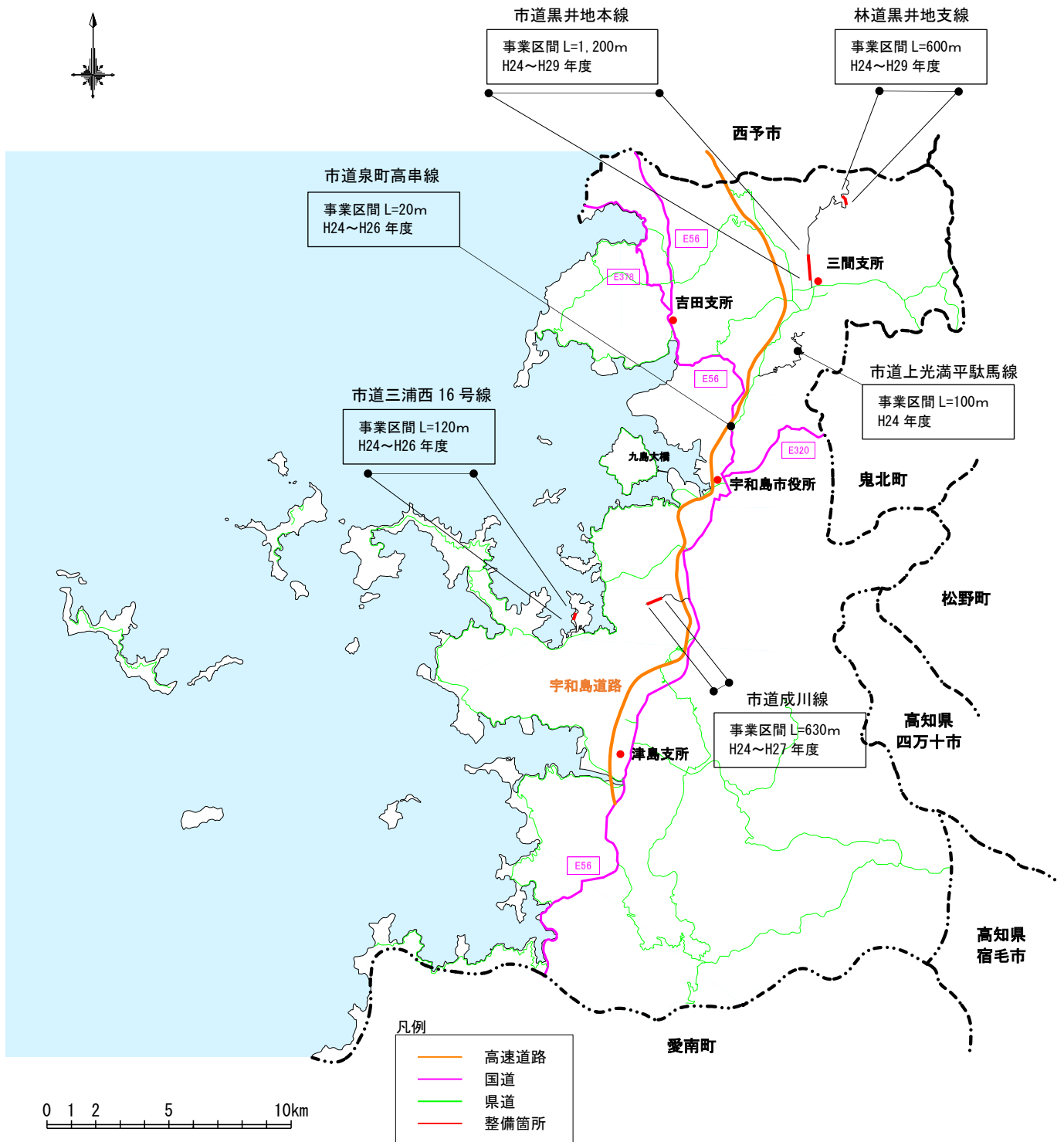
(市道)

路線名		事業期間	事業量	事業費	交付金
黒井地本線	計画	H24～H29	1,200m	270,090 千円	135,045 千円
	実績	H24～H29	1,019m	274,505 千円	137,252 千円
	結果	事業量については、用地の協力が得られなかった箇所があったことから、計画を達成できなかった。事業費については、ほぼ計画どおりとなった。			
成川線	計画	H24～H27	630m	200,000 千円	100,000 千円
	実績	H24～H27	621m	167,514 千円	83,757 千円
	結果	計画は概ね達成できた。			
三浦西 16 号線	計画	H24～H26	177m	41,526 千円	20,763 千円
	実績	H24～H26	178m	41,526 千円	20,763 千円
	結果	計画は概ね達成できた。			
上光満平駄馬線	計画	H24	100m	22,384 千円	11,192 千円
	実績	H24	83m	20,000 千円	10,000 千円
	結果	計画は概ね達成できた。			
泉町高串線	計画	H24～H25	58m	90,000 千円	45,000 千円
	実績	H24～H25	58m	38,535 千円	19,267 千円
	結果	計画は概ね達成できた。			
市道計	計画		2,165m	624,000 千円	312,000 千円
	実績		1,959m	542,080 千円	271,039 千円

(林道)

路線名		事業期間	事業量	事業費	交付金
黒井地支線	計画	H24～H29	600m	60,000 千円	30,000 千円
	実績	H24～H29	590m	60,000 千円	30,000 千円
	結果	計画は概ね達成できた。			

道整備交付金による整備箇所図



4. 目標を達成するために行った事業

(その他の事業)

事業名	目的・内容	実施結果等
九島架橋事業	九島地区（離島）への橋梁建設を行い、日常生活の利便性向上と観光資源開発、救急医療や災害時の不安解消を図ることで定住促進を目指す。	平成 28 年 4 月に供用が開始され、島民の日常生活における利便性が向上し、緊急医療や災害時の緊急的な対応が可能となった。
地域防災計画	宇和島市は、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されているため、同地震に伴い発生する被害の軽減を図り、円滑な避難路の確保に関する事項及び地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備を定め、一般災害対策及び、地震防災対策の推進を図る。 また、地域の共助を推進するため、自主防災組織の結成及び活動を支援する。	地域防災計画については、令和元年度に修正を行い、より一層の市の防災・減災対策を推進している。 また、自主防災組織については、平成 31 年 4 月 1 日現在で「419 組織」が結成されており、組織率としては 92.3%となっている。組織結成の拡大に向け、現在も呼びかけを行っている。
橋梁の耐震化・長寿命化計画	宇和島市が管理している橋梁に対して、橋梁点検と長寿命化計画策定を行うとともに、災害時に通行可能な路線を確保するために、耐震化補強工事等を推進している。	平成 26 年度からは、国が定める点検要領に基づき、交付金を活用しながら全橋梁について点検を実施している。耐震化については、国土強靱化のための 3 カ年緊急対策として、令和 2 年度に社会資本整備総合交付金事業により「水道橋」の耐震化を行う予定である。
防災訓練・広報活動・避難体制の整備	宇和島市地域防災計画に基づいて、定期的に防災訓練を行うとともに、津波・土砂災害・洪水等のハザードマップを作成して住民への広報活動を行い、災害発生時に市民が安全かつ迅速な避難ができるよう、避難所、避難路及び避難方法を定めた避難計画を作成し、住民への周知徹底を図っている。 また、避難所となる小中学校の耐震化も推進している。	宇和島市では、平成 26 年 3 月に防災マップを作成し、広報の配布に併せて各世帯への配布を行ったほか、宇和島市の公式アプリでも閲覧が可能となっている。また、緊急情報については「宇和島市安心安全情報メール」と連携し、携帯電話端末での情報提供が可能となっている。
林内作業路の開設	林道整備箇所では、林内作業路を開設して、木材生産及び間伐に伴う搬出作業の省力化を図る。	本線開通後に整備を予定している。
森林整備の実施	森林整備地域活動支援交付金制度、県造林補助事業を活用して、森林整備を効率的に実施する。	雑木林の除去・間伐林内整備、高齢級搬出間伐を行っている。
宇和島市南予産材木造住宅建築促進事業	木造住宅の南予産材使用を補助し、木材の需要拡大を進めていくことを目的に木造住宅の補助を行う。	平成 24 年度から平成 29 年度で実績 150 件。今後も引き続き広報に努め、木造住宅の南予産材使用を補助し、木材の需要拡大を進めていく。
森林そ正緊急対策事業	高性能林業機械の導入により、間伐材の森林整備の加速化、労力の軽減、木材生産の向上を図ることを目的に、高性能林業機械の補助を行う。	平成 24 年度から平成 29 年度で実績 6 件。今後も引き続き広報に努め、高性能林業機械の導入により、間伐材の森林整備の加速化、労力の軽減、木材生産の向上を図る。
内平ヶ谷川広域河川改修事業	平成2年度～令和3年度に愛媛県が行う、河積拡大、河道整理、護岸補強を目的とする延長1,500mの内平ヶ谷川広域河川改修事業を進めることにより、洪水から	平成 30 年度時点での進捗率は 86%となっており、引き続き事業を進めている。

	人命・財産を守り、治水安全度の向上を図る。	
--	-----------------------	--

(計画外で独自に実施した事業)

事業内容	目的・内容	実施結果
防災ラジオの全戸配布	緊急時の防災情報を正確に周知するために、防災ラジオを貸し出す。	平成 27 年度から貸し出しを開始し、平成 29 年度の普及率は 78%となっている。今後も引き続き貸し出しを行い、災害情報の正確な周知に努める。
市道整備	市道全線に対する大型車の通行可能区間の向上のため、市道の拡幅を行う。	戸島大内浦線、河内惣代線、畑地本線等の改良を行った。

5. 計画全体の総合評価および今後の方針等

【総合評価】

市道整備では、本計画で掲げた整備目標である、「大型消防車の到達不能集落の解消」については、当初 1%の増加を目標としていたが 0.7%の増加にとどまり、目標を達成することができなかった。これは、九島架橋事業といった大規模事業に道路予算を振り分けたことにより、その他の市道整備の進捗に影響を及ぼしたことが原因の一つとして考えられる。

その中でも、「災害時孤立集落の解消」については、目標を達成することができた。

林道整備では、本計画で掲げた整備目標である「災害に強い森林の造成」における「間伐面積（伐採可能面積）」について目標値は達成できた。

【今後の方針】

市道整備では、黒井地本線において用地の協力が得られなかった区間が、未整備のままになっている。よって、今後は、地権者の理解を得ることに努め、引き続き整備を進めることで、安心安全なみちづくりを行う。

林道整備では、林道黒井地支線については、全線約 3.8km の早期開設を目指し、引き続き農山漁村地域整備交付金林道事業を活用し整備を行う。

施設毎の整備概要

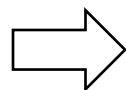
1. 市道黒井地本線
2. 市道成川線
3. 市道三浦西 16 号線
4. 市道上光満平駄馬線
5. 市道泉町高串線
6. 林道黒井地支線

1. 市道黒井地本線 (3種5級 V=20km/h)

特徴・問題点	戸雁集落・黒井地集落から県立三間高等学校横を經由し、市立三間中学校前の「県道広見吉田線」へ接続する幹線的な路線であるほか、児童の通学路にもなっている。
整備目的	歩行者等の安全確保を目的とした歩道の設置。

施工前

車道部W=6.75m 歩道なし



施工後

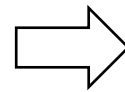
車道部W=6.75m 歩道部W=2.5m



2. 市道成川線 (3種5級 V=20km/h)

特徴・問題点	成川集落と国道を結ぶ唯一の生活道路として利用されているが、迂回路がなく、かろうじて乗用車が通行できる程度の未改良区間が残されており、災害時に土砂崩れが発生した場合は集落が孤立する可能性が高くなるなど、住民は不便な生活を余儀なくされている。成川集落は、森林に囲まれた自然豊かな環境にある。
整備目的	狭隘幅員の解消、視距確保、緊急車両の円滑な通行確保、災害防除を目的とした1車線整備ならびにアクセス改善

施工前
W=3.0m



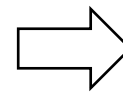
施工後
W=4.0m



3. 市道三浦西 16 号線 (3 種 5 級 V=20km/h)

特徴・問題点	尾崎集落と県道を結ぶ唯一の生活道路として利用されているが、迂回路がなく、かろうじて乗用車が通行できる程度の未改良区間が残されており、災害時に土砂崩れが発生した場合は集落が孤立する可能性が高くなるなど、住民は不便な生活を余儀なくされている。尾崎集落は、リアス式海岸と森林に挟まれた自然豊かな環境にある。
整備目的	狭隘幅員の解消、視距確保、緊急車両の円滑な通行確保、災害防除を目的とした 1 車線整備ならびにアクセス改善

施工前
W=2.5m



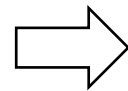
施工後
W=4.0m



4. 市道上光満平駄馬線 (3種5級 V=20km/h)

特徴・問題点	上光満集落・平駄馬集落と県道を結ぶ唯一の生活道路として利用されているが、迂回路がなく、かろうじて乗用車が通行できる程度の未改良区間が残されており、災害時に土砂崩れが発生した場合は集落が孤立する可能性が高くなるなど、住民は不便な生活を余儀なくされている。上光満集落と平駄馬集落は、森林に囲まれた自然豊かな環境にある。
整備目的	狭隘幅員の解消、視距確保、緊急車両の円滑な通行確保、災害防除を目的とした1車線整備ならびにアクセス改善

施工前
W=3.0m



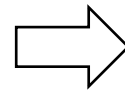
施工後
W=4.0m



5. 市道泉町高串線 (3種5級 V=20km/h)

特徴・問題点	本路線は、下高串集落の「県道広見三間宇和島線」との交差点部において、隅切りが無いいため見通しが悪くかろうじて乗用車が通行できる程度の状態である。
整備目的	視距確保と緊急車両の円滑な通行確保を目的とした交差点部の改良。

施工前



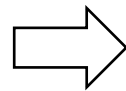
施工後



6. 林道黒井地支線

特徴・問題点	当地域は地権者の多くが高齢化し、森林整備の遅れが著しい地域である。さらに利用区域内の森林はすべて25年生以上で間伐が行われていないため森林整備が急務となっている。森林整備を一体を進めるため、地元森林組合が主体となって施業を進めているが、生産コストを軽減するためには林道の開設が重要となっている。
整備目的	林業の合理化と森林の適正な管理の推進を図ることを目的とした本林道の整備促進（延伸）。

施工前



施工後

